

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 63
平成 22 年

予告 平成 22 年度関西大会

発行 日本庭園学会 (会長 藤井英二郎)
〒 150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1
(有) 造園会館気付
TEL(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>



予告 平成22年度関西大会・研究発表会

平成22年11月27・28日 京都市

企画委員会関西大会運営担当（委員長 鈴木誠・副委員長 仲隆裕）は、平成22年度関西大会の開催スケジュール及びシンポジウムのテーマを決定した。

シンポジウムのテーマは「考庭学の可能性」であり、現地見学会を交えて話題提供と討議が行われる。

考庭学とは、庭園研究の新しい研究の方向性を意図して考えられた造語であり、平成19年度から平成20年度2箇年にかけて関西研究会考庭部会で基礎研究が行われてきた。それは、いわば研究実験であり、縄文時代から飛鳥時代の考古学調査の成果に基づいて、広範の生活の場を意味する庭の実態を検証し、庭園の意義を探求してきた。今回は、研究会の成果を発表するとともに、考庭学の視点での実践的研究の事例を紹介する。

見学会はシンポジウムにおける情報提供と関連して、京都市内の旧揚屋と町家の庭を会場とする。

開催日程は、平成22年11月27日、28日の2日間

である。1日目は見学会及び懇親会が開催され、2日目は午前中にシンポジウム、午後に研究発表会が行われる。

会場は、京都市職員会館かもがわ。なお、詳細については次号の本紙（No.64）で案内する。



大会スケジュール

会場 京都市職員会館かもがわ（京都市中京区）

日時 平成22年11月27日（土）、28日（日）

第1日（27日）

- 12:45 見学会 受付開始（JR 駅北口）
- 13:15 旧揚屋の庭（角屋）
- 15:30 町家の庭（長江家）
- 17:30 懇親会

第2日（28日）

- 9:00 受付開始
- 9:30 開会・シンポジウム開始
- 12:00 シンポジウム 終了
- 13:30 研究発表会 開始

16:30 研究発表会 終了

16:40 総括・閉会



平成21年度関西大会見学会 見学会風景

研究発表会 発表者の募集



平成 21 年度関西大会の研究発表風景



研究会実行委員会では、来る 11 月 27 日（日）に行われる研究発表会の発表者を募集している。

発表時間は、研究発表 20-30 分、質疑応答 5 分を予定している（変更する場合あり）。また、発表には PC プロジェクターの使用が可能。スライドプロジェクターの使用は不可となっている。

発表を希望する方は、A4 判用紙に発表者の氏名、題名、概要（200 字程度）、発表時に使用を希望する機器類、連絡先を明記のうえで、10 月 15 日（金）までに関西大会運営担当へ送付し発表の登録をして頂きたい。研究発表の概要は本紙（No.64）に掲載する予定となっている。

発表者は、続いて 11 月 29 日（金）までに研究発表資料を関西大会運営担当へ送付されたい。研究発表資料の分量は、A4 判で分量は 2 ページか 4 ページ、6 ページのいずれか。1 ページあたりの文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じ、横書き 2 段組、1 段あたり 25 字 40 行となっている。なお、書式はホームページからダウンロードが可能となっている。

申し込みと資料提出の締め切り日は厳守のこと。

▼発表の申込み先・発表要旨の提出先

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局

FAX(075)791-9342

第2回見学会 大宮盆栽美術館

見学会実行委員会では、平成22年9月19日にさいたま市盆栽美術館の見学会を実開催する。さいたま市大宮盆栽美術館は、平成22年3月に開館した盆栽文化を紹介する美術館で、浮世絵や水石、盆器、歴史資料等も展示されている。当日は、常設展示の見学並びに学芸員による展示解説が行われる予定である。

多数のご参加を期待する。

見学地 さいたま市盆栽美術館

住所 さいたま市北区土呂町2-24-3

日時 平成22年9月19日(日)

14:00～

定員 30名

連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷4丁目9-29
文京ふるさと歴史館 学芸員 加藤元信
TEL:03(3818)7221 FAX:03(3818)7210

交通アクセス

東部野田線 大宮公園駅下車 東口から徒歩
JR 宇都宮線 土呂駅下車 徒歩

第4回 関西研究会 文化財庭園部会

開催のお知らせ

関西支部では、平成22年9月26日に関西研究会文化財庭園部会を開催する。第4回となる文化財庭園部会では、近年、京都市内の文化財庭園の修理において取り入れられている版築による築山の修理技法について、各現場の設計者と保存管理技術者より紹介される。また、関連して京都市指定名勝 西翁院庭園の見学会を行う。

参加を希望される方は、関西支部事務局までFAXに氏名、所属、参加人数をご記入の上、お申し込み下さい。9月21日(火)必着。

会場 京都会館会議室(京都市左京区)

日時 平成22年9月26日(日) 13:00～16:30

定員 30名 参加費 未定

- 1 京都市指定名勝 光雲寺庭園の築山修理
環境デザインスタジオ セブン・プラス・フォー
武廣 健

- 2 京都市指定名勝 西翁院庭園の築山修理
花豊造園株式会社 長谷川 忍
- 3 特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園の築山修理
株式会社環境事業計画研究所 北川明日香
- 4 質疑応答
- 5 見学会 西翁院庭園(予定)



問い合わせ先

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局
FAX(075)791-9342

報告 平成 22 年度 全国大会シンポジウム

平成 22 年 6 月 12・13 日

平成 22 年 6 月 12 日、日本庭園学会全国大会公開シンポジウムが開催され、奈良文化財研究所史跡整備部長である小野健吉氏による基調講演、関東地方の中世城跡、寺院跡の事例報告が行われた。

基調講演は、文化財庭園のうち、特に埋蔵庭園遺構を取り上げ、庭園遺構が検出された遺跡を宮殿遺跡、住宅遺跡、寺院遺跡、城郭遺跡等に分類し、その発掘された庭園遺構の保存と整備における取り扱いについて述べられた。そこでは、まず、埋蔵庭園遺構は庭園遺構の形状が複雑で、改修による遺構の積み重なりが見られること等の特質の説明があり、次に、整備の際にどの時代に焦点を当てるのか、どう評価するのかを検討し、研究資料を踏まえた上で整備を行うことの重要性について事例をまじえた説明が行われた。

事例報告では、まず、足利市教育委員会の板橋絵氏により、史跡樺崎寺跡の調査と復原整備についての発表が行われた。そこでは、中世を代表する豪族武士団足利市の氏寺跡、廟所跡で浄土庭園をもつ中世寺院跡である樺崎寺跡においては、南北約 150 m、東西約 70 m の広大な園池をはじめ多くの庭園遺構が確認されていること、園池の変遷としては 4 時期確認されており、遺構の保存状態が良好な時期を整備対象とし、平成 21 年度より園池の整備に着手したことについての説明があった。更に、角礫からなる州浜の保存整備等具体的な手法とともに、整備事業の進捗状況の報告がなされた。

続いて、鎌倉市教育委員会の福田誠氏より、源頼朝が鎌倉に建立した三大寺院の一つである史跡永福寺跡について、平泉の中尊寺、毛越寺等に影響を受け建立された経緯等、概観の説明があった。そこでは、史跡永福寺跡は、庭園遺構としては上記の樺崎寺跡と同様広大な園池（南北約 200 m、東西約 70 m）が確認されていること、創建期の護岸は箇所によって岩盤を削り残したものであったが、ある時期に砂利を敷き詰めた州浜に改修されていること等、調査成果の報告があった。さらに、整備対象時期は創建期であるとして、基本的に遺構は盛土保存した上で復原整備を行う考え方だが、今後整備を進める中で、護岸を構成する砂利の入手の難しさについても触

れられた。今年度は阿弥陀堂の基壇復原に取りかかる予定であるとして、永福寺跡の調査成果及び整備の考え方についても発表が行われた。

その後、つくば市教育委員会 広瀬季一郎氏による史跡小田城の整備事業について報告が行われた。そこでは、小田城跡は歴史的重要性や遺存状態が良好な平城跡として史跡指定を受け、平成 9 年度より確認調査、平成 21 年度より整備工事を開始しており、庭園遺構として、底面に小石が敷かれた池跡をはじめ、州浜、築山等が確認されていることが述べられ、さらに、基本的に景石が少なく、その他の遺構面との関係上遺構の露出展示は行わず、埋め戻した上での復原整備方法として、それぞれの構成要素の整備手法についても説明がなされた。そして、今回の整備対象である池跡の西側で確認されたもう一つの池跡についても調査成果報告があり、池跡だけではなく総体の庭園としての検討を加えていきたいとの抱負が述べられた。

次に、桜川市教育委員会 宇留野主税氏より「史跡真壁城跡の史跡庭園遺構」と題し、平成 19 年度の報告に引き続く形での概要報告があった。そこでは、平成 6 年度に指定された城跡は、これまでの発掘調査成果において 15～16 世紀の城郭変遷を捉えており、16 世紀第 3 四半期より中城庭園が出現したと推定していること、中城庭園遺構においては、緩やかな傾斜地を利用した池





跡、またそれを囲むそれぞれ性格の異なる建物群等が検出されているが、その中には、茶室や能舞台と思われる遺構があることが述べられ、これらとその他要素との関連や空間構成、機能といった視点から、他事例との比較研究等の発表がなされた。

最後に、京都造形芸術大学教授仲隆裕氏をコーディネーターとしパネルディスカッションが行われた。ここでは、テーマがある程度絞られた発表となったため、相互に比較することができるディスカッションとなった。このような場で情報を得て、比較検討することは、それぞれの遺跡の特性を捉えるきっかけとなるため、今後はそれらを踏まえた調査や整備が増加することを希望したい。

(株式会社空間文化開発機構 木下紘子)

会費納入のお願い

平成 22 年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入頂きますようお願いいたします。

表紙の写真

【京都市指定名勝 角屋の庭】

■編集後記

平成 22 年度全国大会には多数の会員が参加し、研究大会・公開シンポジウムでは活発な議論が行われました▼公開シンポジウムの内容につきましては学会誌に開催報告が掲載される予定ですが、本号にて概要の速報を掲載しています。執筆して下さいました木下紘子さんに御礼申し上げます▼初代会長浅野二郎先生の名誉会員推薦が総会で承認されました。浅野先生には今後も引き続き学会誌の論文審査、20 周年記念事業の重責を担っていただくこととなります。長年のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後も後進のご指導をお願い申し上げます次第です▼また長年副会長をおつとめいただいた中村昌生先生に日本庭園学会賞が授与されました。記念講演でお示くださった先生の「庭屋一如」の精神に、一同心を打たれました。心よりお祝いを申し上げ、また感謝申し上げます▼本号では第 2 回見学会、関西研究会および平成 22 年度関西大会のご案内を掲載しました。いずれも有意義な会となりますよう、多くの会員の参加をお待ち申し上げます▼日本庭園学会誌も次号の編集が始まっております。これまで研究大会で発表されました方々をはじめ、学術論文の投稿を受け付けております。こちらにも奮って投稿下さいますようお願い申し上げます▼今年も厳しい暑さが続いております。みなさまのご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます (T. N)

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送または FAX にてご連絡頂けますよう、よろしく願ひます。

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会 広報委員会「学会ニュース」係

FAX(075)791-9342

編集長／仲 隆裕 編集・写真・構成／今江 秀史

協力／木下紘子

日本庭園学会広報委員会

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342